

猫の暮らし向き調査研究(2009年)の概要について

会員の皆様には日頃から本協会の活動にご支援を賜っておりますことに厚くお礼申し上げます。特に、動物の暮らし向き調査研究には、ご多忙の中格段のご協力をいただき、心から感謝しております。

今回は、「猫の暮らし向き調査研究(2009年)」を2010年に回帰的に行った結果についてご報告します。本協会にて実施した猫の調査としては、「猫の暮らし向き予備調査研究(2008年)」(以下、予備調査という)に次いで、最初の「本調査研究」の結果ですので、猫の予備調査の結果(本誌212号<2010年3月号>)および「犬の暮らし向き調査研究(2009年)」(以下、犬の調査という)の結果(本誌216号<2010年11月号>)と比較しながら見ていただきたいと思います。今回の調査では管理士用、一般用と調査票を区別

したところ、管理士用で猫889頭、一般用で猫438頭(計1,327頭、予備調査では1,176頭)のデータを得ることができました。本誌216号<2010年11月号>でも述べましたように、データの解析には約1,000頭以上の調査数が必要といわれています。したがって、今回は、得られたデータを管理士、一般に分けないで、今まで同様、大くりのままの単純集計結果を報告いたします。ご了承ください。

本誌217号<2011年新年号>とともにお送りした調査票では、大幅に調査項目を減らし、回答しやすいように工夫しております。また調査にご協力いただけていない方も、お待ちしておりますので、ぜひご協力をお願いいたします。

飼養管理調査研究委員会

調査研究結果の概要

要約

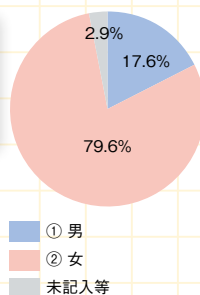
「猫の暮らし向き調査研究(2009年)」を実施した。管理士用で889頭、一般用で438頭のデータが得られたが、各グループともデータ数が少なかったため、両者の計1,327頭のデータについて単純集計した。その結果、

1. 猫の入手方法は「保護した」、「知人等から」が上位を占めていて、購入が中心の犬の入手方法とは対照的であった。
2. 個体識別をしている猫(約26%)は、狂犬病予防法で登録が義務付けられている犬(約72%)よりも大幅に少なかった。また、品種では主に雑種である日本猫等が約78%を占めており、純血種に区分される猫は犬(約83%)に比較して圧倒的に少ないと思われた。
3. 猫の人口(猫口)ピラミッドでは、雄で2歳、雌で1歳が最大頭数を示した。いずれも年齢が高くなるにつれ頭数が減少した。最高年齢は25歳で、20歳以上の個体は1%未満であった。また、雄で去勢手術済みの個体が約73%、雌で不妊手術済みの個体が約71%で雌雄ともに犬より高かった。
4. 体型では「痩せている」より「太っている」が多い傾向を示し、全体的にやや肥満傾向にあることがうかがわれた。
5. 飼養目的・動機について、1つ選ぶとすれば「ペット(友達、家族)」とする割合が約77%で圧倒的に多かったが、2つ選ぶとすれば2つ目は「家族のコミュニケーション」と「伴侶」とする割合がいずれも約28%で、「1つ選ぶとすれば」ではあまり選ばれなかった項目の割合が増した。
6. 飼養場所は約8割が「室内」、散歩の有無では「しない」が約9割であった。
7. 食事で、「キャットフードのみ」が約8割、これに「キャットフード主体」を加えると9割強となり、キャットフードの使用率が高かった。
8. 飼養条件の良否を総合的に判定する指標としての寿命の計算が必要であるが、そのために必要な生命表の作成ができなかった。

1. 飼い主の性別

	頻度	パーセント
① 男	233	17.6%
② 女	1,056	79.6%
未記入等	38	2.9%
計	1,327	100.0%

図1. 飼い主の性別

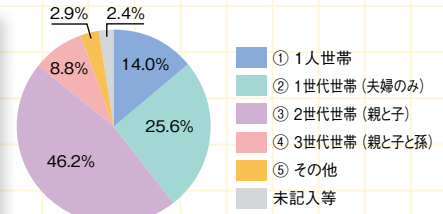


飼い主は女性が約80%で、予備調査とはほぼ同じ値を示した。また、犬の調査(女性が約70%)よりも若干高かった。

2. 飼い主の世帯

	頻度	パーセント
① 1人世帯	186	14.0%
② 1世代世帯(夫婦のみ)	340	25.6%
③ 2世代世帯(親と子)	613	46.2%
④ 3世代世帯(親と子と孫)	117	8.8%
⑤ その他	39	2.9%
未記入等	32	2.4%
計	1,327	100.0%

図2. 飼い主の世帯



予備調査と同様に、飼い主は「2世代世帯」が圧倒的に多く、次いで「1世代世帯」となっている。「1人世帯」の飼い主が犬の調査(約9%)より若干多かった。

日本全体では「1人暮らし世帯」が約30%、「夫婦のみ世帯」が約20%、「夫婦と子どもから成る世帯」とひとり親と子どもから成る世帯」が約38%であることと比較すると、1人暮らしで犬猫を飼う人は少ないといえる。

3. 飼い主の居住都道府県

	世帯の集計	パーセント
1 北海道	57	4.3%
2 青森県	10	0.8%
3 岩手県	8	0.6%
4 宮城県	22	1.7%
5 秋田県	8	0.6%
6 山形県	8	0.6%
7 福島県	28	2.1%
北海道・東北小計	141	10.6%

8 茨城県	22	1.7%
9 栃木県	16	1.2%
10 群馬県	17	1.3%
11 埼玉県	91	6.9%
12 千葉県	94	7.1%
13 東京都	210	15.8%
14 神奈川県	148	11.2%
関東小計	598	45.1%

15 新潟県	31	2.3%
16 富山県	10	0.8%
17 石川県	12	0.9%
18 福井県	3	0.2%
19 山梨県	16	1.2%
20 長野県	20	1.5%
21 岐阜県	11	0.8%
22 静岡県	35	2.6%
23 愛知県	42	3.2%
中部小計	180	13.6%

24 三重県	18	1.4%
25 滋賀県	11	0.8%
26 京都府	20	1.5%
27 大阪府	69	5.2%
28 兵庫県	44	3.3%
29 奈良県	20	1.5%
30 和歌山県	7	0.5%
近畿小計	189	14.2%

31 鳥取県	2	0.2%
32 島根県	5	0.4%
33 岡山県	26	2.0%
34 広島県	37	2.8%
35 山口県	15	1.1%
36 徳島県	3	0.2%
37 香川県	6	0.5%
38 愛媛県	8	0.6%
39 高知県	7	0.5%
中国・四国小計	109	8.2%

40 福岡県	35	2.6%
41 佐賀県	4	0.3%
42 長崎県	6	0.5%
43 熊本県	5	0.4%
44 大分県	5	0.4%
45 宮崎県	7	0.5%
46 鹿児島県	13	1.0%
47 沖縄県	6	0.5%
九州・沖縄小計	81	6.1%
未記入等	29	2.2%
計	1,327	100.0%

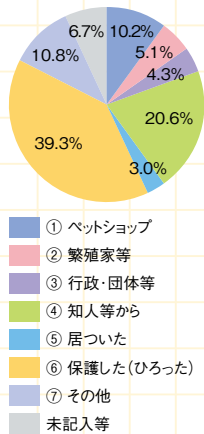
都道府県別飼い主数の順位は、日本の人口、世帯数、本協会の会員数の分布とほぼ一致していて、この傾向は猫の予備調査(2008年)や犬の調査(2009年)と同様であった。

4.入手方法

	頻度	パーセント
① ペットショップ	135	10.2%
② 繁殖家等	68	5.1%
③ 行政・団体等	57	4.3%
④ 知人等から	273	20.6%
⑤ 居ついた	40	3.0%
⑥ 保護した(ひろった)	522	39.3%
⑦ その他	143	10.8%
未記入等	89	6.7%
計	1,327	100.0%

犬の調査では「ペットショップ」「繁殖家等」から入手する人が約62%であったのに対し、予備調査と同様に、猫ではそれらが約15%にすぎなかった。一方、予備調査で約46%と多数を占めた「その他」は、約11%となった。これは、予備調査ではなかった「保護した(ひろった)」を選択肢に加えたことによると思われ、これが猫の入手方法として最多となる約39%を占めた。

図3.入手方法



5.個体識別(複数回答)

	頻度	パーセント
① 有	344	25.9%
(1) 名札	290	21.9%
(2) マイクロチップ	46	3.5%
(3) その他	14	1.1%
② 無	896	67.5%
未記入等	87	6.6%
計	1,327	100.0%

(1)名札、(2)マイクロチップ、(3)その他は、複数選択可。
(1)名札、(2)マイクロチップ、(3)その他は、頻度の合計に含まれていない。

「個体識別をしていない」と答えた人は予備調査と同様に約68%で、犬の調査の約27%と比べると圧倒的に多かった。一方、個体識別をしている人を調査対象者別にみると、管理士が約29%に対して一般が約21%と差がみられた(カイ2乗検定、 $P < 0.01$)。また、この一般の数値である約21%は、動物愛護に関する世論調査(平成22年9月 内閣府)で所有者明示を「すべての猫に明示している」と答えた人が約18%、「一部の猫に明示している」と答えた人が約3%の合計約21%と一致しており、興味深い。

図4.個体識別

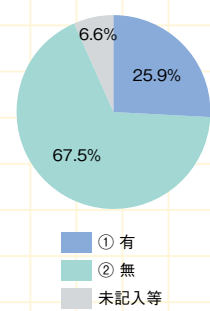
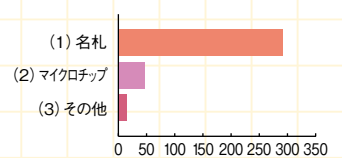


図5.個体識別の種類

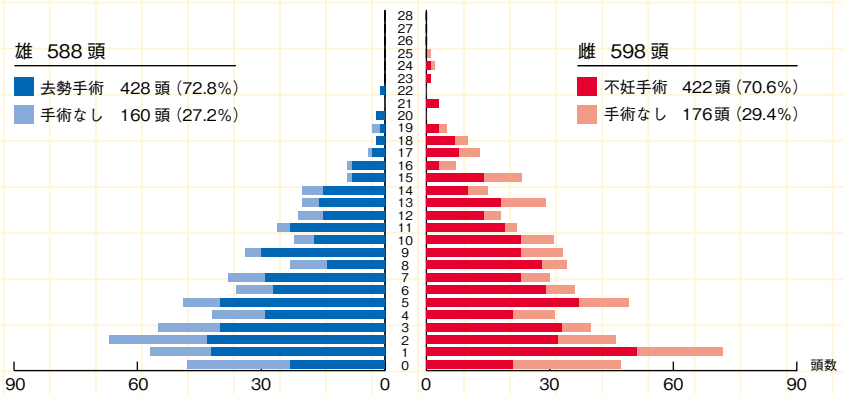


6.猫口ピラミッド2009

年齢	雄	雌	年齢	雄	雌
0	48	47	15	9	23
1	57	72	16	9	7
2	67	46	17	4	13
3	55	40	18	2	10
4	42	31	19	3	5
5	49	49	20	2	0
6	36	36	21	0	3
7	38	30	22	1	0
8	23	34	23	0	1
9	34	33	24	0	2
10	22	31	25	0	1
11	26	22	26	0	0
12	21	18	27	0	0
13	20	29	28	0	0
14	20	15	合計	588	598

年齢別に頭数をみると、年齢の上昇とともに頭数は減少する傾向がみられたが、雄で2歳、雌で1歳と犬の調査に比べ低い年齢で最大値を示した。調査頭数が少ないこと、調査者が死亡データの報告(記録)に消極的に

図6.猫口ピラミッド2009



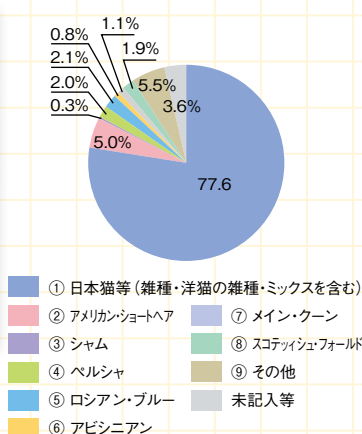
なりがちと思われることなどから、分布のふれが大きく生命表の作成ができず、したがって寿命も計算できなかった。雄で去勢手術をしている割合は約73%、雌で不妊手術をしている割合は約71%で、いずれも犬より高かった。

7.品種

品種	頻度	パーセント
① 日本猫等(雑種・洋猫の雑種・ミックスを含む)	1,030	77.6%
② アメリカン・ショートヘア	66	5.0%
③ シヤム	4	0.3%
④ ヘルシヤ	27	2.0%
⑤ ロシアン・ブルー	28	2.1%
⑥ アビシニアン	11	0.8%
⑦ メイン・クーン	15	1.1%
⑧ スコティッシュ・フォールド	25	1.9%
⑨ その他	73	5.5%
未記入等	48	3.6%
合計	1,327	100.0%

「日本猫等(雑種・洋猫の雑種・ミックスを含む)」と答えた人が約78%を占め、「純血種」と答えた人が約83%を占めた犬の調査結果とは対照的であった。

図7.品種

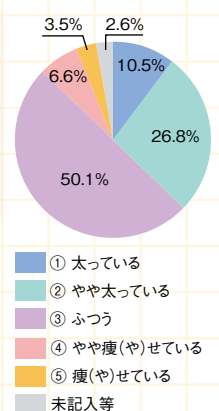


8.体型(飼い主の判断による)

	頻度	パーセント
① 太っている	139	10.5%
② やや太っている	355	26.8%
③ ふつう	665	50.1%
④ やや痩(や)せている	87	6.6%
⑤ 痩(や)せている	46	3.5%
未記入等	35	2.6%
計	1,327	100.0%

太っているかどうかの基準は示さないで、飼い主の判断で書いていただいたものである。「太っている」が約11%、「やや太っている」が約27%で、「ふつう」が約50%であった。一方、犬の調査では「太っている」が約4%、「やや太っている」が約21%で、「ふつう」が約62%であった。

図8.体型

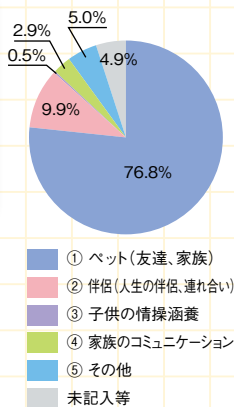


9. 主な飼う目的・動機(1つ選ぶとすれば)

	頻度	パーセント
① ペット(友達、家族)	1,019	76.8%
② 伴侶(人生の伴侶、連れ合い)	137	9.9%
③ 子供の情操涵養	7	0.5%
④ 家族のコミュニケーション	38	2.9%
⑤ その他	66	5.0%
未記入等	65	4.9%
計	1,327	100.0%

「ペット(友達、家族)」と答えた人が約77%で最も多く、2位の「伴侶」(約10%)を大きく引き離していた。

図9. 主な飼う目的・動機(1つ選ぶとすれば)

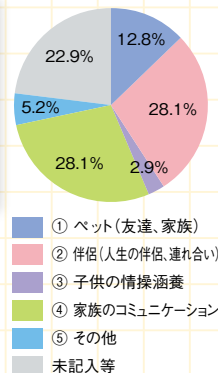


10. 主な飼う目的・動機(2つ選ぶとすれば2つ目は)

	頻度	パーセント
① ペット(友達、家族)	170	12.8%
② 伴侶(人生の伴侶、連れ合い)	373	28.1%
③ 子供の情操涵養	38	2.9%
④ 家族のコミュニケーション	373	28.1%
⑤ その他	69	5.2%
未記入等	304	22.9%
計	1,327	100.0%

1つだけ選択することを求められた場合に、割愛せざるを得なかった「家族のコミュニケーション」と「伴侶」がいずれも約28%と、9. 主な飼う目的・動機(1つ選ぶとすれば)で得た結果よりも大きく増加した。

図10. 主な飼う目的・動機(2つ選ぶとすれば2つ目は)

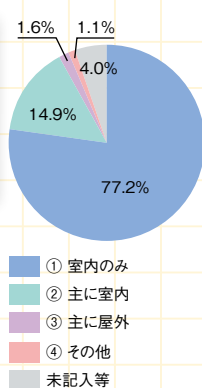


11. 飼っている場所

	頻度	パーセント
① 室内のみ	1,025	77.2%
② 主に室内	198	14.9%
③ 主に屋外	21	1.6%
④ その他	15	1.1%
未記入等	68	5.1%
計	1,327	100.0%

「室内のみ」と答えた人は約77%で、犬の約72%よりわずかながら多かった。

図11. 飼っている場所

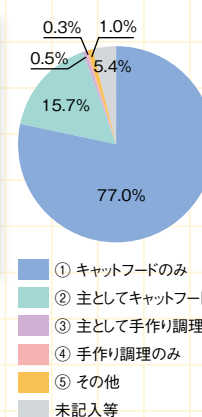


12. 主な食事

	頻度	パーセント
① キャットフードのみ	1,022	77.0%
② 主としてキャットフード(他に手作り調理もときどきまたは少しずつ)	209	15.7%
③ 主として手作り調理(他にキャットフードもときどきまたは少しずつ)	7	0.5%
④ 手作り調理のみ	4	0.3%
⑤ その他	13	1.0%
未記入等	72	5.4%
計	1,327	100.0%

犬の調査ではドッグフードを中心に与える人は約86%、猫ではキャットフードを中心に与える人は約93%であった。「キャットフードのみ」と答えた人は約77%で、犬の「ドッグフードのみ」と答えた人の約48%よりかなり高率であり、猫におけるペットフードへの依存度の高いことが示された。

図12. 主な食事

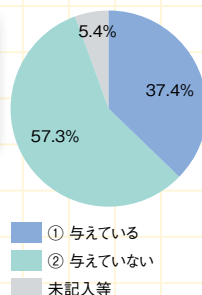


13. おやつ(しつける時に与える場合は除く)

	頻度	パーセント
① 与えている	496	37.4%
② 与えていない	760	57.3%
未記入等	71	5.4%
計	1,325	100.0%

与えている人は約37%で、予備調査(約35%)と同様の傾向がみられた。

図13. おやつ

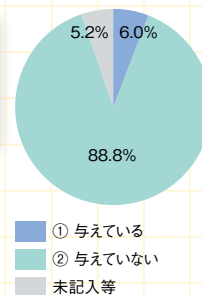


14. サプリメント

	頻度	パーセント
① 与えている	79	6.0%
② 与えていない	1,179	88.8%
未記入等	69	5.2%
計	1,327	100.0%

猫にサプリメントを「与えている」と答えた人は約6%で、きわめて少なかった。

図14. サプリメント

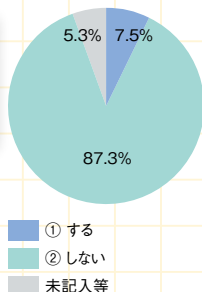


15. 散歩

	頻度	パーセント
① する	99	7.5%
② しない	1,158	87.3%
未記入等	70	5.3%
計	1,327	100.0%

予備調査と同様に、散歩を「する」と答えた人は約8%であった。

図15. 散歩



機関誌の贈呈分が別に届いた方へのお願い

『愛玩動物』2010年新年号(通巻211号)に同封いたしました「猫の調査票 一般用」で一般の方に調査をご協力いただいた方には、概要報告を記載している本号(通巻218号)を1冊別送しております。つきましては、お忙しい中恐縮ではございますが、調査にご協力いただいた一般の方にお届けいただき、概要報告についてご説明していただきたく、よろしくお願いいたします。

皆様のご協力のおかげで、犬の本調査に続いて、猫の本調査を行うことができました。誠にありがとうございます。すでに2011年新年号(通巻217号)に同封しましたように、本年度の調査票は、何よりも一人でも多くの方にご協力をいただけるようにすることが大切であることから、より正確な猫の人口(猫

口)ピラミッドを作成するために必要な項目を中心に記入いただくように、調査票を簡易化しました。

お忙しいなどの理由により途中でストップされている方も、この機会にぜひ、以前に調査データを送っていただいた個体を用いて、調査研究のデータ収集にご協力をお願いします。